



産学連携プロジェクトの推進に向けて

日本電信電話(株) NTT研究所 主幹研究員・参与 星合 隆成

今年度も、群馬大学共同研究イノベーションセンター客員教授として、皆様とご一緒に活動させていただくことになりました。よろしくお願い申し上げます。

私は、これまでも早稲田大学客員として、次世代コミュニケーション理論として位置づけられる「ブローカレス理論」を用いた新ビジネス創発・フィールド展開を指向し、そのための様々な産学連携プロジェクトをプロデュースしてきました。

特に、桐生地域においては、群馬大学工学部の本島先生やNPO法人桐生情報化ネットワークとも連携し、総務省関東総合通信局による「ICタグと自律分散協調ネットワーク（P2Pネットワーク）の高度利用」に関する半年間の実証実験、愛知万博協会からの依頼で企画した「100万人の回覧板SIONetを用いた打ち水大作戦」プロジェクト、「SIONet」を用いた地域情報化ネットワークの実証実験、ならびに、群馬県主催の「地域における通信と放送の融合に関する委員会」などをこれまでに推進してきました。

今年度は、引き続き、FM桐生とWebコミュニケーションの融合に関する産学連携プロジェクトの運営を計画しています。

具体的には、通信と放送の融合の観点から、桐生地域に設立予定のFM桐生と連携して、リアルタイム・アドホック(インスタント)・プレゼンスをキーワードとしたインターネットにおける次世代型Webコミュニケーションと放送の融合による有効性を明

らかにします。また、ロングテール時代に対応可能な新たな広告ビジネスモデルの構築に関する研究も行う予定です。

微力ではありますが、産学連携プロジェクトの推進、ならびに、大学発ベンチャーによる起業に尽力し、産・学・地域社会の活性化に貢献したいと考えています。このような産学連携プロジェクトには、早稲田大学の学生もたくさん参加しています。群馬大学の学生諸子にも活きた最先端のICTに関する研究・学習フィールドを提供できればと思っております。みなさまの、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

略歴：星合隆成（コンピュータ科学者, 工学博士）

1986年NTT研究所入所。現在、NTT研究所主幹研究員・参与。群馬大学客員教授、早稲田大学客員研究員、米国ベルコミュニケーション研究所客員研究員（1995-1997年、米国に赴任）、日本大学非常勤講師、総務省・ICタグと自律分散協調ネットワーク調査検討会委員、経済産業省・次世代型新IT環境研究会委員、群馬県「地域における通信と放送の融合に関する委員会」座長代理、TINAコンソシアム運営委員、(社)TRON協会CTRON作業部会幹事、(社)電子情報通信学会代議員・運営委員・通信ソサイアティ幹事・コミュニティ活性化研究会専門委員・公式常任査読委員・座長、(財)日本情報処理開発協会・(社)電子情報技術産業協会・(財)デジタルコンテンツ協会などの特任講師を歴任。ブローカレス理論の提唱者、SIONetの考案者、ユビキタスP2Pのパイオニアとして知られている。主な著書に、ブローカレスモデルとSIONet, オーム社(2003)、新版原典CTRON大系カーネルインタフェース仕様書第三版, オーム社など。論文、取材記事、講演等多数。

<http://www.geocities.co.jp/SiliconValley/8143/>

<http://www.geocities.jp/brokerlessmodel/main.html>